

学校給食で農業学ぶ

高校生が栽培した米提供

登米総合産業高農業科の生徒が栽培した環境保全米が県の食育推進月間である11月、市内の各幼稚園と小中学校の給食で提供されました。

提供先の各学校・幼稚園には、約5700人分、550^{kg}の環境保全米「ひとめぼれ」の新米のほか、同校農業科の生徒が作成・編集した、新米のおいしさや栽培に対する思い、米の栽培方法などを収録したDVDを配布。村上希虎君＝米谷小6年＝は「いつものお米よりももちもちしている気がします。米作りは授業で体験したことはあったけど、映像を見て全体の流れがよく分かりました」と、農業への理解を深めました。



子供たちは口いっぱいにご飯をほおぼりながら、いつもの米との違いを確認していました。

アニメから宇宙学ぶ

石ノ森記念館で特別企画展

第65回特別企画展「宇宙なんちゃらかてつくん展」が10月30日から令和4年1月23日まで、石ノ森章太郎ふるさと記念館で開かれています。

企画展はNHKで放送中のアニメがテーマ。作品に登場するキャラクターのグッズやアニメで使われた台本のほか、JAXAの協力により宇宙服などが展示されています。家族3人で入館した川村秀樹さん(51)＝北海道小樽市＝は「私の世代のヒーローといえば仮面ライダー。娘もライダーが好きで章太郎記念館に来るのを楽しみにしていました。ゲームコーナーは、親子で楽しめました」と企画展を満喫しました。



ゲームコーナーは、宇宙飛行士の訓練にも取り入れられている鏡の迷路や宇宙クイズなど遊びながら宇宙を学べる内容です。

木育から五感を磨く

おもちゃの広場遊び提供

「おもちゃの広場 IN cafe tetote」(みんなのおもちゃ箱主催)が11月21日、手のひらに太陽の家で開かれました。

企画したおもちゃコンサルタントの長倉理恵さんは、優良なおもちゃ遊びを提供できる資格を生かし、仲間たちと木育などを取り入れた遊びの広場イベントを年に数回実施しています。「グッド・トイ2020」に選ばれた木のおもちゃを用意し、事前に予約があった5組の親子をもてなしました。芸術と遊びを組み合わせた木育は五感を磨く効果があり、親子は木のぬくもりを感じながら交流し合い楽しみました。



「おもちゃの広場」に参加した親子らは、木のおもちゃに触れ、穏やかな楽しいひと時を楽しんでいました。

後継者の発掘を狙う

森舞台で伝統芸能体験会

「とよま伝統芸能伝承体験会」は11月7日、伝統芸能伝承館「森舞台」など3会場で開かれ、市内外から約200人が参加しました。

体験会は、登米町の伝統芸能3団体が、担い手不足で伝承危機にある伝統芸能を体験してもらうことで興味を持ってもらい後継者発掘につなげたいと企画。とよま山車祭り保存会により7曲のお囃子と祭礼の歌「とよま木遣り」が、岡谷地南部神楽保存会により「鶏舞」などが、登米謡曲会により演目「猩猩」が公演されました。森舞台は光に照らされ幻想的な雰囲気観客を魅了。その後、3会場で体験会が実施されました。



伝統芸能体験会に参加し華麗な「鶏舞」を舞う、登米中学校の生徒たち。

高校生がCMを制作

ふるさとCM大賞に出品

自治体などが制作したCM作品を紹介する「第20回みやぎふるさとCM大賞発表審査会」(東日本放送主催)が12月4日、同本社で開かれました。

CM大賞は、東日本放送が2002年から毎年開催しており、今年は29市町村が応募しました。本市では、市内三公立校から集まった12人が「登米市内高校生制作チーム」を結成。高校生たちが自ら企画・出演・編集し、登米市観光PRキャラクター「はっとな」を中心に構成した市の魅力を届ける映像を制作しました。審査会の模様は、1月3日(月)午後4時から東日本放送で放映される予定です。



審査会には、田口真唯さん＝登米総合産業高3年＝と千葉涼香さん＝佐沼高2年＝が出席し、作品に込めた思いを話しました。

僕らの未来を考える

中学生が参加の子供議会

「子供議会2021」(とめ青年会議所主催、岡本哲志理事長)は11月13日、市役所議場で開かれ、市内10校から選ばれた19人の中学生が市長らと議論を交わしました。

子供議員は、議長の発言許可と共に手を挙げ、演壇で「市民が気軽に交流できる場所がほしい」「避難場所や防災に関する標識や看板を増やすべき」など、中学生の目線から感じたことを質問しました。伊藤琉衣さん＝津山中2年＝は「自転車での通学中に感じた道路整備の必要性について聞きました。参加したことで、今までは知らなかった登米市のことを聞けたので良かったです」と、市政への関心を高めました。



議場で発言する子供議員。登米市の未来を考えた真剣な議論が交わされました。